
QA8 限度値の計算で、年齢が低いほど限度値が高くなっていますが、これは小児の放射線による影響を過小評価しているのではないですか。

限度値を算出する際には、年齢区分ごとの年間の食品摂取量や、体格、代謝が考慮された線量係数を用いて計算しています。その結果、1歳未満（男女平均）で460ベクレル/kgである一方、最も小さくなるのは13～18歳男性の120ベクレル/kgであり、これを安全側に切り下げた100ベクレル/kgを全年齢区分の一般食品の基準値として適用することで、乳幼児をはじめ、全ての世代に配慮したものとなっています。年齢が小さくなるほど限度値が大きくなる傾向があるのは、食品中の主たる存在核種が放射性セシウムとなる現状において、年齢区分ごとの線量係数の差よりも、食品摂取量の差のほうが限度値の計算に大きく寄与しているためです。

統一的な基礎資料の関連項目

下巻 第8章 76 ページ「基準値の計算の考え方 (2/2)」

出典：厚生労働省「食品中の放射性物質に係る基準値の設定に関する Q&A について（平成24年7月5日）」より作成

出典の公開日：平成24年7月5日

本資料への収録日：平成24年12月27日